慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	革命思想の文学；其後の高商事件；大隈伯とチロル氏との問答；ダルキン百年祭；海軍拡張と財政難；布哇邦人同盟罷業の再燃；孔子廟の焼火；武士道の流行
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.1 (1909. 7) ,p.87- 95
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	時評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090701-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

時評

○革命思想の文學

高橋誠一郎

文學は汚水に生ずる子子の如きものである。清水に子子の發生せぬと等しく清純なる社會に大文學は出でない。文學は迷の產物である。醒覺した社會には大文學はない。而して子子が發生すると自然と汚水が澄む樣に、濁世の文學は亦これを澄して行く力を持つてゐる。迷つて出來ない文學は亦迷つた社會を悟に赴かしむる力を有してゐる。

不斷の革命は社會をして恒に清新ならしむる唯一の方法である。何時の社會にも其裏面には革命の暗流が流れてゐる、而して此地底の暗流に棹して、燃ゆる眼に社會を瞰み、鐵の如き舌端にこれを刺さんとして居る文學者批評家は決して絕ゆることが無いのである。大ナポレオンの時代にはシアトブリオンが居つた。ルイ、ヒリップの時代にはラマルチンが居つた。三世ナポレオンの時代にはヴイクトル、ユーゴーが居つた。現代の社會を代表する哲學的文學者は十目の見る所先づトルストイ、イブセン及びゾラの三者に一致するであらう。ゾラ、イブセンは逝き、トルストイは老ひた然も彼等の勢力感化は尙ほ現代を支配してゐる。

トルストイは混迷の大塊である。現代の混濁に發生した子子の最大なるものである。而して既存の事物に對して毫も滿足する所なき革命主義者である。「基督敎的無政府主義者」とは最も克く彼の思想を穿つた所言である。イブセンは理論と傳說の最も大膽なる破壞者である。而してゾラに至つては些かも假借する所なく富豪階級の腐敗、資本の壓迫暴虐、官吏軍人僧侶の貪懶僞善を犀利の筆端に暴露せしめ、更に大なる同情を以て勞働者階級の窮迫と惡鬪の狀を描き、以て明確に其革命的の理想を傳へんと努めた。彼は常に新にして然も、より善き世界に對して憧れて居つた。宛もミルト

ンが窃かに其詩中の大魔王セータンを慕つてゐた如く、バイロンが自己の描いて魔天使リユーシフアを景仰した如くに、彼ゾラは假作中のダイナマイトを深く愛してゐた。彼は此現實的の妖魔崇拜の念を隨所に發揮せしめて居つた。

將來を有する文學者の内で革命思想の鼓吹に最も努めてゐるものは佛のアナトール、フランスである。彼は繪畫的で偉大でそして崇高なるに於てはゾラに劣るが、然も彼に比して更に透徹にして更に深酷である。彼はゾラに缺けて居つた諧謔機智に多く富んでゐる。語法に於てゾラが頗る不謹愼なりしに反して彼の文字は精練無疵である。ゾラの激烈なりしに反して彼は周到である。ゾラの兇猛なりしに反して彼は溫順である。ゾラの生硬なりしに反して彼は圓熟してゐる。ゾラを以てゴシック的とすれば彼は希臘的である。然も尙ほ彼はゾラと等しく最も畏る可き現代の罪惡指摘者(アイコノクラスト)である。ゾラが社會を攻擊する時は常に興憤的で熱烈を極めてゐるが、フランスは厭くまで靜寂冷淡である。人は火に物を燃す力の有ることを知ると共に、水にこれを推し流す力の有ることを忘れてはならぬ。彼は冷い反語を以て現代を破壞せんと試みてゐる。

其他エスキロスの「プロメシウス」、エーリピヂーズの「バッカンチーズ」の古よりシルレル、シエレー、スウインバーン、ロバート、バース乃至ワルト、ウイットマンの今に至るまで其述作の局所々々に深酷なる革命思想を宣揚した詩人は決して少なくない。否、所有る詩人の思想其物は革命であると謂ふことを得る。オーガスタン、ヒロンは「現代に於て多少無政府的の思想を有して居らぬ思索家ありとは信ずることを得ない」と書いてゐるが、吾人は少くとも「革命的の思想を有して居らぬ詩人はない」と斷言することを得ると信ずる。

バイロン卿は「眞理の泉は澄む時があるかも知れぬが、其下流は常に濁つてゐる」と謂つて居る社會全般の清澄を待つのは、黃河の濁を去らんとするよりも尙ほ不可能事である。然しながら社會

の源泉たる政治家學者詩人の頭腦だけは這の混濁の外に超然として、彼の白蓮の如き淸ぎ容を有して居らねばならぬ。停滯は腐敗である。社會の心意と其形態は須臾止まざる變化を受けて居らねばならぬ。而して其變化は先づ微妙なる詩人文學者の頭腦より來るのである。宛もスキフトがホールに先立つて火星の衛星の存在を知つた如く、ゲーテがダーキンに先立つて生物進化の理を究めた如くに、社會上諸般の革命改革に對しても亦これが預言者となり前驅者となつて世に叫ぶものは常に詩人である。

革命の思想を傳へざる詩や文學は無きに若かずである。吾國の文壇にも次第に泰西の革命的文學が紹介せらるゝに至つた。ユーゴーの名は早くから喧傳せられて居つたが、近來に及んで更にトルストイ、ツルゲネフ、ゴルキー、ゾラなどの翻譯せらるゝこと頻繁となつた。蓋し吾が思想界の沈靜停滯を醒覺し攪亂せんとする要求が社會の一方に存在する證左と見る可きものであらう。彼のアナトール、フランスの如きも近來一部人士の間に研究せられて居る樣である。吾人は一日も早く彼の著、少くとも Jerôme Coignard だけでも吾が國人の爲めに紹介せられんことを望むものである。政府萬能、軍人全盛の日本の社會には彼の痛切なる反語は單に一服の淸涼劑たるのみでないと思ふ。

吾國の創作者程哀れなものはない。彼等の觀察は自己の周圍方六尺を出でずである。世界の思潮は何處から如何流れて居るか、現代は何に苦み、何を要求して居るか、彼等に取つては全然沒交涉である。彼は麵麭に餓へ、肉に喘ぎ、詩想の枯渴に苦む自己の外に描く可き何物をも有さぬのである。偶々其描寫が遠きに及んだとしても自己の妻自己の父母兄弟乃至は朋友の範圍を出でないのである。而して多數の士女は尙ほ實感微發の外に文學の難有味を知らぬのである。故人二葉亭四迷が名のみ高くして、然も眞の讀者を有して居らなかつたのでも判る。過られたる自然主義の作品が未だ全盛の勢を逞して居るのでも判る。吾國の文壇

が久しく斯くの如き狀態に在る樣では、社會に對する革命思想の宣揚などゝ云ふ重大なる使命を之に傳へる事は思ひもよらぬ沙汰と謂はねばならぬ先づ文壇其物に革命を喚起するのが今日の急務である。

○其後の高商事件

さしも一時世間の耳目を聳動せしめた高商騷動も漸く下火となつて、其後日譚の如きも一向に面白くない樣である。

教員連中は大學教授博士と云ふ肩書が欲しかつた。學生は角帽が戴つて見たかつた。これが此問題の始である。教員連中は其沸騰した大問題の勇將となつて學生の輿望を一身に集めたかつた。學生は世間の煽動と其青春の客氣の發動とに驅られて騎虎の勢止み難くして眞地に進んだ。これが此問題の中である。教員連中は孰れも其入る穴が出來た。學生は餘りに其片意地を張つたが爲めに將來の賣れ口の杜絶する鬼胎を生じて來た。そこで一切萬事を實業界の先輩に委ねて素直に復校したこれが此問題の終である。文部局の俗吏は昂然として放語した、「嚴罰に處す可きの所特別を以て復校を許す」と。昨日まで大言壯語した大學生は生意地なくも無言のまゝノートを抱いて日々其解散を叫んだ校門をくゞつてゐる。

高商事件の後日譚として見る可きものは、所謂三團體なるものと文部當局者との交渉である。專攻科廢止撤回延期は、所謂政府の威信に關するものとして厭くまでこれを拒んで居る。俗吏には俗吏相當の我といふものがある。世間で認めぬ威信を我れ獨り認めて居る間が彼等の命である。而して此我執の有る間は彼等の讓步は決して之を望むことを得ない。結局は商科大學の設立を少しく延期してほとぼりの冷めるのを待つ位が關の山であらう三團體の委員等も不得要領の交渉を續けつゝ苒荏日を消してゐる間に社會は全く此問題を忘れて行き、自然其廣言した腹も切らずに了むとと呑氣に構へて居るらしい。唯だ徒に此問題に力瘤を入れた人々こそ好い面の皮である。

○大隈伯とチロル氏との問答

大隈伯は人材缺乏の日本に在つては確かに一名物たるを失はぬ。來遊外客は先づ日光廟を見物する前に此老伯の鑁鏘たる風貌に接するを光榮として居る。タイムスの外報部主任チロル氏も亦此例に漏れずして五月二十七日早稻田邸に隈伯を訪ふた。チロル氏先づ個人の利得を本位として相競爭する商工業の發展が從來日本の國民的特性たる國家的共同の觀念に何等かの影響を與ふることは無らうかとの問を發して老伯の答を待つた。卽ち經濟上に於ける個人主義自由主義の發達と共に日本國民の思想に一大變化を生ぜしむることなきやを質したものである。而してこれに對する伯の答は頗る奇々妙々遺憾なく彼の無學無見識を發揮してゐる。伯は兎に角吾が國の名物である。本來の無學は素より明であるが、せめて外客に對してだけは何とか之を掩ふことを得さうなものであつたと思ふに、斯く赤裸々にそを顯したのは遺憾千萬のことである。伯の答は卽ち吾國民の特性といふ可き共同一致の愛國的思想は其根源一に家族制度に由來せるものである。神道といひ、武士道といひ大和魂といふも。皆此家族制度より來た忠孝の精神の別名に外ならぬ、吾が文明の本體は家族制度である。此家族制度が永遠に强固である以上は、如何なる他の文明の刺戟を受けても、其國民的思想に劇變を與ふるが如きことはない。余は今一萬の學生を教育して次代の國民を製造しつゝあるがこれに對する用意亦茲に在るのであるとの趣旨である。

家族制度が國家組織の模型であつて、國家は家族の擴大したもの、元首は父、臣民は子であるとの觀念は古くはシセロの de Officis より近くルッソー「民約論」に至るまで數多の學者の唱へた所である。固より最初の國家組織は皆父權的國家であつて、殆ど國家組織と家族組織との間に何等の

相違を發見することを得なかつた。家長に對する關係は卽ち元首に對するものと同一である。然も世運の進歩は國家と家族とをして別種の發達を業げしめた。其有樣は萬邦皆軌を一にして居る。何も取り立てゝ吾日本の特色と云ふことを得ない。唯だ吾國の特色とも謂はゞ謂ふ可きものは此父權的國家が他國よりも比較的長く存續して居つた事實である。日本の文明が歐洲諸國に比して甚だしく遲緩な進歩をなして居つた大原因は這個の父權的國家が長き存在を保つたが爲めである決して他に對し誇る可き性質のものでない。チロル氏は日本も其經濟上の進歩に伴つて個人主義の發達となり自由競爭激甚を極むると共に舊來の國家萬能的干涉主義に一大變化を及ぼさゞる可らざるを說いたのである。然るに大隈伯は奇怪にも吾が國民の思想は封鎖的なる自足自給時代の家族制度が基礎になつて居るから如何に個人主義自由主義が盛んになつても變化する虞は毫末もないと答へるのである。チロル氏は恐らく初めて日本に渡つて松浦潟の漁翁に驚かされたる白樂天よりもなほ此著名なる日本の老政治家の爲めに驚かされたとゝ想ふ。

○ダルヰン百年祭

本六月廿二日を期して英國劍橋大學に於ては盛大なるダルヰン先生生誕百年の祭典が擧行せらるゝ筈である。先生の生誕は實に一千八百〇九年二月十二日で其大著「種の起原」が始めて出版せられたのは今より五十年前卽ち一千八百五十九年の十一月二十四日である。今年は洵に先生に對して思出多き年である。

「世の中に新奇なものは一として有ることがない」。進化論も素より此眞理に對して例外を爲すことを得ないものである。彼の以前にはラマルク、ゲーテあり、彼と時代を同じくしてワルラスのありし事は何人も熟知する所である。加之彼の偉大なる發明に對して直接の暗示を與へたものは有名なる經濟學者トーマス、ロバアト、マルサスの「人口論」である。發見は長き歷史を有する一條不斷

の連鎖である。彼マルサスも亦其著に對する名譽の全部を獨占することを得ない。彼はゴッドヰン、コンドルセーより刺激を受けたるのみならず、其立論に於ても亦ヒユーム、ワルレス、アダム、スミス及びプライス等に負ふ所が頗る多い。科學界の大天才は蓋し皆大なる溜池の如きものである彼以前若しくは彼と同時代のベスト、メンのベスト、ソーッは悉く彼に於て合して一となり、更に幾多の流は復た彼より發して後世の學界を灌すのである。ダルヰンは溜池の最大なるものであつて彼の進化論の潤を受けて發進したものは獨り生物學にのみ止らずして、萬般の社會科學にまでも及んでゐる。

科學には固より國境の有ることを許さない。ダルヰン先生の生誕百年祭を擧行して其功績を頌せんとするは決して先生の生國たる英國にのみ限る可きことでない。我國の如きも「種の起原」の稿を了へたる九月か若しくは其初版を刊行した十一月廿四日を卜して百年祭を擧行するの計畫なきか。吉田松陰や加藤清正を祭るに比して遙に意味有ることゝ想ふ。

○海軍擴張と財政難

英獨間の製艦競爭は今や世界列强の全體に傳染して、ドレッドノート型インヴィンシブル型等の語は到る所に繰返されて居る。而してこれに伴ふ必然の結果は財政の困難である。獨逸帝國の財政難は既に久しき以前より傳へられてゐたが、今又佛蘭西の如きも約五百萬磅の歲入不足を告げ、內閣會議は終に歲出の大々的削減を決意するに至つた。然も其一方に於て海軍擴張の聲は絕えずして海軍委員會は一億二千萬磅を投じて戰鬪艦及び巡洋艦の建造費に充てんことを計畫してゐる。

「本來は平和の際にも戰時に於ても君主をして毛の負擔をもなさしめなかつた國防費は社會厘の進步戰術の發達に伴ふて先づ戰時に於ける支給を必要ならしめ、次で平時にも亦これが君主の負擔を感ぜしむるに至つたのである」と經濟學の祖は

說いてゐる。近來の驚く可き國防費の增加は多く皆平時に於てなされたものである。世界は最も平和である。軍備の擴張は最も急速である。而して財政の困難は最も甚しきを告げてゐる。世界は此奇なる三命題よりして如何なる結論を引くことを得るか。

○布哇邦人同盟罷業の再燃

布哇エワ砂糖耕地罷業の全部並にワイアルワ罷業者の一部は罷業繼續の可否に就て投票を行へるの結果、六月七日より從前と同額の賃銀にて復業したが再び罷工熱はカウワリ砂糖耕地の勞働者より燃えて約六千名の本邦移民に及び、耕主等は司法權行政權を利用して之を壓服せんと試みて居るとの報が傳へられた。次で罷工の主謀者等は秩序紊亂の罪名を以て令狀なくして拘引せられ、增給期成同盟會及び日布時事新報社捜索の結果日本人間に米人の手許より同島諸問題の支配權を奪はんとするの密謀あるとを發見したとの報が傳つた

同盟罷業に對する法權の壓迫。斯くの如きは吾人が殆ど吾人の耳を疑はんとする所である。これが勞働者の同盟が一般に禁止せられて居つた十九世紀の初なら知らぬことゝ同盟罷工は勞働者唯一の自家防衛の武器として認められ、殊に米本國では勞働者の權力强く、盛に此武器を用ひて雇主を苦しめつゝあるに反して、獨り布哇に於ては單純なる增給を目的とせる同盟罷業者に對して逮捕監禁を行ふたとは如何にも信ずるを得ないのである若し果して此事ありとすれば同盟罷工に伴つて行はれたる勞働者の所爲にして米國々法に牴觸するものが有つたと解釋するのが、同國々法の神聖を信じ、同國官憲の公平を疑はざる吾人に取つては至當のことゝ考へる。

憐む可きものは吾布哇移民である。彼等は明かに日本外交當局者の無能の犧牲となつたものである。外交の失敗は彼等をして今日の悲運に沈臨せしめた直接の原因である。對米外交の柔軟は彼に乘ずべきの機を與へて布哇移民の米本國轉航禁止となつた。移民は此に於て乎其勞働力の販路を布哇島に限られざるを得ない。彼等の賃銀が低落するのは蓋し當然の結果である。彼等が血と汗とは悉く貪慾飽くなき耕主の手中に歸するのである。彼等に取つて此横暴なる耕主に對し自家の利益を主張するの手段は僅に同盟罷業あるのみである。然るに今や其唯一の武器も米國官憲の爲めに奪はれて、其首領は囹圄の身となり、多數の勞働者は再び耕主の前に屈服して薄倖なる運命に泣くことゝならんとしてゐる。彼等は米國官憲や布哇耕主に對して怨るの前先づ各外交軟を呪ふ可きである

○孔子廟の燒火

山東省曲阜なる孔夫子廟火災に罹れりとの報がある清國々運の前途に光明ある可き前兆かも知れぬ。支那の退嬰は其大原因消極主義の儒教的教育に在ること勿論である。清國此後の發達の爲めには孔子廟のみならず、儒教其物をも燒く必要が有る。

○武士道の流行

桃中軒雲右衛門君の後塵を拜して、幾多賢明なる教育家諸先生が舌を涸らして武士道の皷吹に盡瘁せられたる結果空しからず、武士道の大流行を極むるに至つた。殊に封建の武士にも劣らざる花々敷行動を爲しつゝあるものは吾中學生である。彼等が其士道を全うする爲めに日常匕首を懷にするが如き、學友の復讐を爲して他を銃殺せる、今又肥前唐津に於ては學生一同血書同盟して白紙試驗答案を出せるが如きは皆武士道の精華を發揮したものである。武士道宗は大杯を揚げて其成功を祝す可きである。

（六月十二日稿）